

1. 参加人数及び参加団体数

平成13年度の参加人数は87,450人となった。うち、一級河川¹は14,238人であり、その他の河川²は73,212人とその他の河川については過去最多の参加人数であった。また、参加団体数は2,642団体で、うち一級河川は574団体であった。

参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで中学校、観察会での参加が多い。

都道府県別の参加者数では福島県が最も多く、次いで岩手県、愛知県となっている。なお、一級河川では北海道が最も多く1,424人であった。

参加者数の多い都道府県

順位	都道府県名	参加人数	一級河川再掲
1	福島	9,258	174
2	岩手	7,265	514
3	愛知	6,518	1,059
4	静岡	5,350	575
5	岐阜	5,242	357

1 一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）

2 一級河川都道府県管理区間及び二級河川等 1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

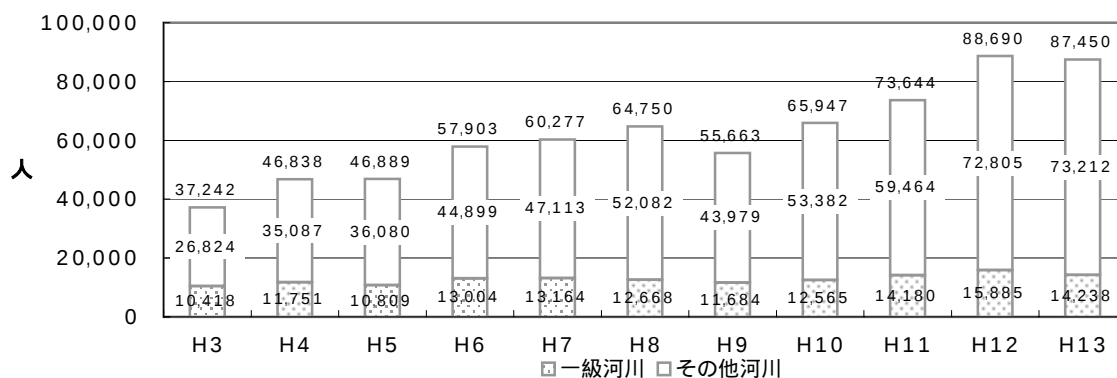


図-1 参加人数の推移

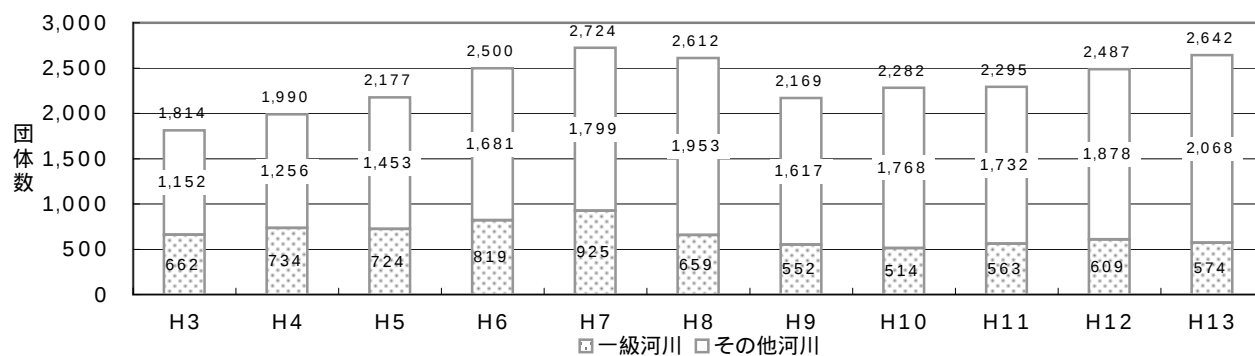
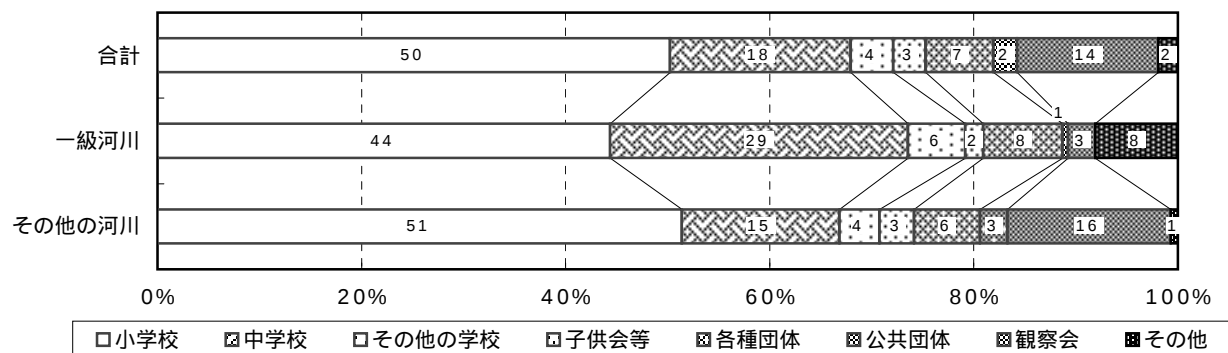


図-2 参加団体数の推移



四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-3 参加人数の団体種類別構成比

2. 調査地点数

調査地点数は5,520地点であった。
うち、一級河川は599地点、その他の河川は4,921地点である。

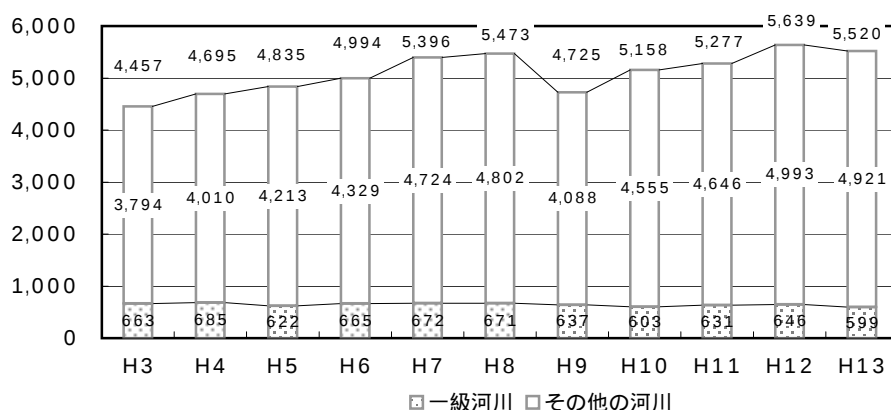


図-4 調査地点数の推移

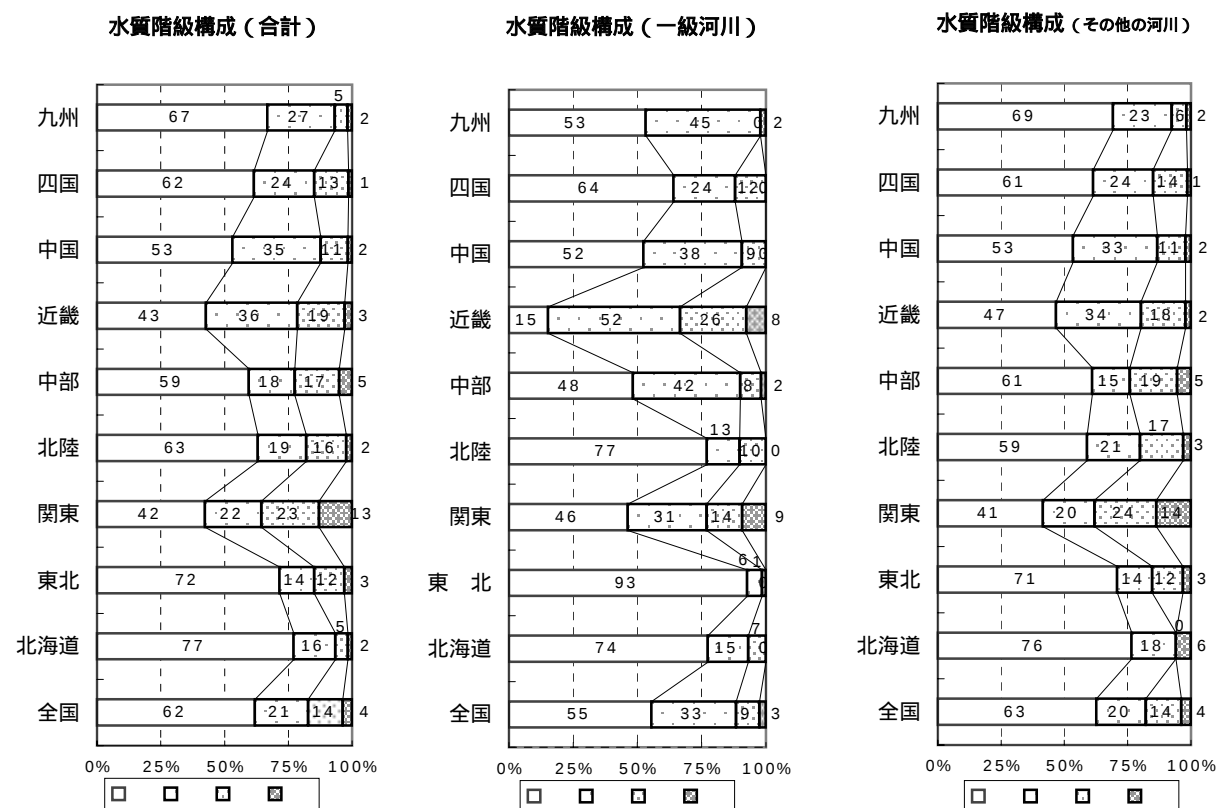
3. 地域別水質階級構成（地域別の水質の状況）

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状態を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概括的に知ることができると思われる。

平成13年度は、全国で水質階級（きれいな水）と判定された地点が62%、（すこしきたない水）が21%、（きたない水）が14%、（大変きたない水）が4%であった。

（きれいな水）の割合でみると関東、近畿地方は50%未満であったが、北海道、東北、九州地方は70%前後の高い値であった。各地方の一級河川とその他の河川の（きれいな水）の構成比は全般に似通った値となっているが、近畿地方はその他の河川の方が（きれいな水）の構成比が高く、関東地方では逆に一級河川の方が高いなど地域による差も生じている。

また、その他の河川における（きれいな水）の構成比が全国で63%と高いことから、日頃目にすることが多い中小河川にもきれいな水に棲む生物が多く生息していることが分かる。



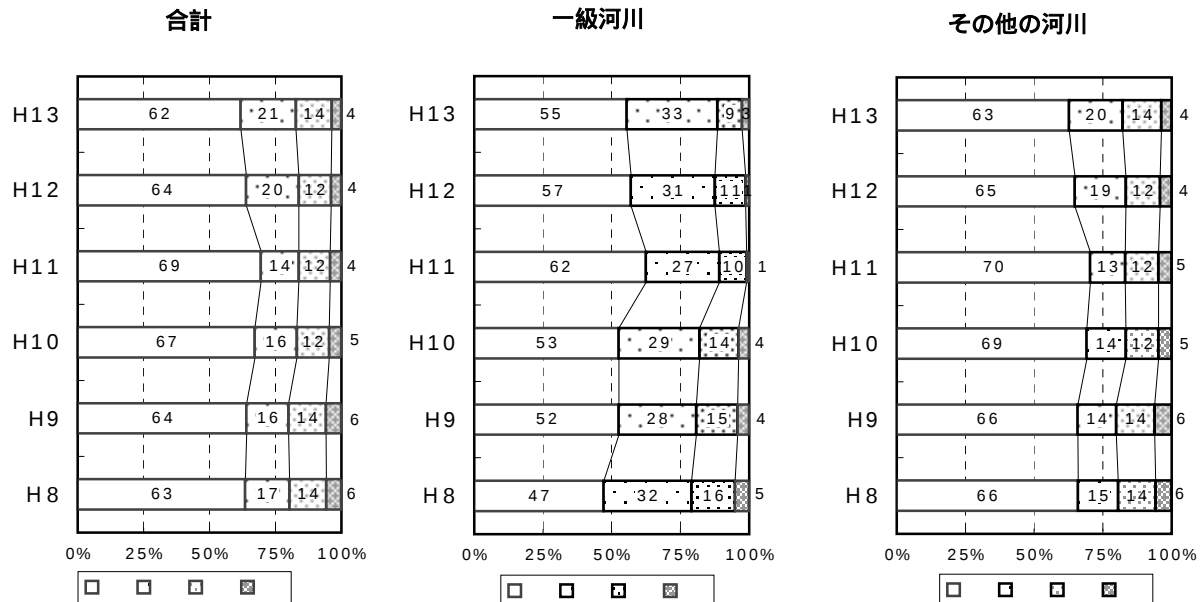
四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比は経年的に安定した比率で推移している。平成13年度は（きれいな水）の構成比が昨年に比べ2%減少し、（すこしきたない水）の構成比が1%増加したが、全般的な傾向は概ね前年度と同様である。

なお、平成12年度以降（すこしきたない水）の構成比が以前に比べ5%程度増加し20%程度で推移しているのは、平成12年度からの指標生物及び評価法の変更による影響が考えられる。

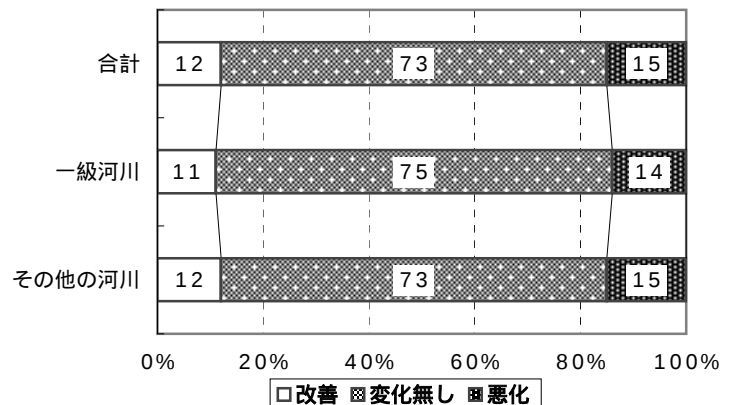


1 四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
2 平成12年度から調査手法を変更しているため、平成11年度以前との厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（H12）との比較

前年度と同じ地点で調査された2,772地点について比較すると、12%の地点が改善、15%の地点が悪化、73%の地点が同じ水質階級であり、ほぼ横ばいの傾向にあった。



四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での前年度との比較